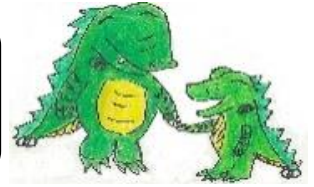




和邇小

ニュースレター

NO.3



2019.2.15

前回に続き、忘れ物のことについてのコラムを紹介します。

「忘れ物が多いとどうなるか？Ⅱ」

●冷たい親に対して愛情不足を感じる

「忘れ物が多いとどうなるか？」で、忘れ物の多い子を自業自得方式で放っておくと次の3つ弊害があると書きました。

- 1, ますます忘れ物をするようになり自己肯定感が持たなくなる
 - 2, 授業に集中できなくて学力が下がる
 - 3, 子ども自身も自業自得方式を身につけて、友達に冷たくなる
- さらに4つめとして、もう1つたいへん大きな弊害があります。

↓↓↓↓↓

4, 冷たい親に対する愛情不足を感じる

忘れ物が多くて自分が毎日こんなに困っているのに…

授業で困り、先生に叱られ、友達にも何か言われ、毎日イヤな思いをしているのに…それなのに何一つ温かい手を差し伸べてくれない冷たい自分の親…そういう親に対して、子どもは愛情不足を感じて、不信感を持つようになってしまいます。

つまり、「自分は親に愛されていないのではないか?」「自分は大切に思われていないのではないか?」という疑いが出てきてしまうのです。

全ての児童がこのように感じるというわけではありません。このように感じる児童もいるという例として読んでください。



●愛情不足を埋め合わせたいという衝動に駆られる

親に対する愛情不足感・不信感を持つと、子どもはそれを埋め合わせたいという衝動に駆られます。その表れ方にはいろいろありますが、1つには、「やってはいけないこと」をするようになります。それは、年代によって中身は違ってきますが、反社会的な行動と危険な行動です。

例えば、お店の物を取る、火遊びをする、物を壊す、弱い子をいじめるなど、反社会的な行動とケガをするかも知れないような危険な行動です。親が心配しておろおろする姿を見て、子どもは「こんなに心配してくれている。やっぱり愛されているんだ」という愛情確認をしたいのです。

●子どもに必要なのはあたたかいサポート

今回は忘れ物についての自業自得方式を批判しました。

自業自得方式は言い換えると放任主義ですが、これを忘れ物だけでなく万事において採用している親もいます。

そういう人は、忘れ物だけでなく、勉強でも整理整頓でもなんでも、「自分が困れば懲りて直すだろう。だから放っておけばいい」という自業自得方式（放任主義）のことが多いです。

そして、これとはちょっと違う対応である、ただガミガミ叱るだけのガミガミ方式（叱り主義）というものもあります。

子どもに必要なのは、放任でもガミガミでもなくあたたかいサポートです。

次の2つの工夫をして、あたたかいサポートをしてあげてください。

- 1, 子どもが自然にできるような合理的な方法の工夫
- 2, 子どものやる気が出るような言葉の工夫

親野智可等さんホームページより抜粋



私も子どもへの接し方を考えさせられるコラムでした。その子に合った「合理的な方法」や「やる気が出る言葉」学校でも家でも工夫できそうです。保護者の方にも何かのヒントになれば幸いです。下学年の頃は「褒める」、上学年の頃は「認める」というキーワードを教師に成り立ての頃、先輩教員から教えてもらったことがあります。叱り方や褒め方は子育ての中で悩めることが多いですが、どちらも適度に使いわけて、放任ではなく大事にしていることが伝わるよう関わりを続けていきたいものです。